

## 第2回 奈良県立高等学校入学者選抜検討委員会 議事要録

1 日時 令和4年1月19日(水)10時～12時

2 場所 奈良県庁 東棟2階 教育委員室

3 出席者(敬称略)

京都大学特任教授	小松 郁夫
奈良教育大学教授	赤沢 早人
県議会文教くらし委員会委員長	森山 賀文
県都市教育長協議会会長	上田 陽一
県町村教育長会会長	小谷 隆男
県PTA協議会会長	春山 真美
県高等学校長協会会長	吉田 浩一
県中学校長会会長	深瀬 重雄

(※ 委員欠席1名)

県教育委員会教育長 吉田 育弘  
他、県教育委員会事務局職員 5名

4 概要

(1)開会

○県教育委員会教育長<あいさつ>

・入試というものに対する世間の注目度、それは大学入試であっても、高校入試であっても、非常に注目されている。我々県教育委員会としては、新しい入試制度をこれから作っていくということで、多くの皆様にご意見をいただきたい。

(2)協議

○事務局より<資料に基づき説明>

○主な意見

・推薦選抜を半分以上の都道府県が採用しているということは、推薦選抜は意味があるのではないかと考えるが、推薦という形よりも内申に加点をするなど、今の特色を幅広くしたぐらいがよいのではないかと思う。

・特色選抜のねらいが実現できているかどうかを論ずるにはまず中学校側で進路指導が実際どのように行われているかきちっと把握した上でしか、ねらいが実現できているかどうかかわからないと思うが、ここ2年間定員が割れているので、そう意味ではねらいが実現できていないのではないか。

・地域推薦という形の入試は、地域を守っていくということも含めて、地域の子どもが地域の高校に進学してほしいという1つの考え方であると思う。その視点で推薦選抜があるとなると、大変望ましいと考える。

・かつての地域連携で、中学校での学習面に気持ちが向かない悩みというものも聞いたことがある。学習への意欲をどのように保つかという不安な部分はあるが、地域の中学校から高校に進むというのは非常に意味のあることである。

・特色選抜の制度が始まった段階では、明らかに少しでも早く進路を決めたいという生徒が多く、どの学校のコースもオーバーしている状況だったが、近年は定員を割ったり、偏りがあったりするような状況である。志望する生徒がある程度集約されてきたということと、中学校段

階で将来を見据え、進路を決めて実業コースに入るといった指導が不足しているのではないかと。

・子どもたちの現状を見ると、中学校でのキャリア教育の中で職業に対する興味・関心は高まるものの、卒業段階では幅広く勉強できる高校を終えたうえで選びたいという傾向がある。

・推薦入試について、近年、国立大学においては、学習指導要領の改訂に伴って、思考力・判断力・表現力が重視されているところである。学力検査では測れない力を推薦入試で判定するという形で考え、大学入試センターもそのように移行していることも考慮していくとよい。

・推薦入試については、校長推薦が大変悩ましいところと考えており、複数の子どもたちが推薦を希望したときに、中学校の校長が判断できるのか。希望をすればすべて推薦をするという形に結局はなってしまうのではないかと。

・専門高校の校長の意見としては、特色選抜は絶対必要である、これがなくなれば実業高校は立ちゆかないという意見の一方で、逆になくしてもよいとの意見があるのも事実。なくしてよいという理由として共通しているのが、3学期の授業時間の確保である。

・ある商業高校だと7割5分が大学進学になっている。そういう学校は普通科と一緒に試験をしても子どもが来てくれるのではないかと思うので、入試は1回でよいのではないかと。

・1回の試験でもいいので、いくつか自分で学校を選ぶことができるのであればよいのではないかと。複数校志願は1つの方法かと考える。

・検査の内容によって将来的には、マークシートやC B Tの導入も検討すべきではないかと。選抜を1回にすれば、受検教科数も含め、その1回の試験を多様にする必要があるのでは。

・中学生たちが専門学科を積極的に選ぶにくいという現状。とりあえず普通科というところをもう少し洗い出す必要がある。別の県で、例えば商業高校で大学進学を軸に置き商学部とか経済学部とかの推薦をねらっている高校があったり、農業高校でスーパーサイエンスハイスクールというのもあったりするわけなので、特に高等学校の専門学科における教育の工夫を見通しながら考えていただきたい。

・受検機会ということで言うと、シンプルイズベストかと思う。可能な限り1回の入試でうまくいくならその方がいいだろうと思うし、その第一志望、第二志望というのも制度的に難しいというところはあると思うが、実現可能であれば検討していただければと思う。

・奈良県の子どもは出来るだけ奈良の高校でしっかりと18歳まで育てるということは非常に大事なことで、なにも大阪や京都の私立に行かなくていい、やはり県として18まで責任を持って教育に関わっていくんだという姿勢が大事だと思う。小中高連携を行っている地域もある。単に教育改革を越えて、街作りとして出来ることだろうと思う。

・基本的な姿勢として、一人も取り残さずに、それぞれの生徒に合った、その生徒が入りたい学校で学べるチャンスを与えるものであってほしい。一人も取り残さない制度づくりが大事。

#### ○事務局より<次回以降のテーマの提案>

ア 多様な能力を評価する選抜方法に関すること

イ 生徒の多様な受け入れに関すること

#### ○委員長まとめ

次回以降の委員会で、協議を深めていく。

#### (3)閉会

##### ○事務局より

・今後について事務連絡